稲葉健二のコラム

９月議会の一般質問で「認知症の早期発見に向けたまちづくり」についてお聞きしました。市川市の平成２７年８月末の６５歳以上の高齢者は９６１９３人です。国が発表している認知症の有病率推定値で算出すると、市川市の認知症有病者数は約１１０００人～約１６０００人と推計されます。加えて正常と認知症の中間と言われている、軽度認知障害（ＭＣＩ）の人は約１２０００人と推計されます。今後、この数は高齢化の進展に伴って増えると見込まれています。

今、認知症は早期発見、早期対応で進行を抑えることが有効とされています。そのためには変化に早く気づき適正な治療をうけることが必要です。認知症は自分ではっきりと判断することは難しいものです。周りの人達で見守っていくことが大切だと思います。市川市では１０月から認知症初期集中支援チームを設置し、早期診断・早期対応の体制整備を進めています。また、今までは「地域包括支援センター」の名称を、１０月から「高齢者サポートセンター」と替えて、より身近な窓口にしていきます。他市では高齢者の地域見守りのために、ボランティア（地域見守り推進員や協力事業所）などで高齢者地域見守りネットワークをつくっています。市川市のような大きな市ではなかなか一人ひとりに目が届いていきません。そのような中、地域の支え合いや周りの方に注意をしながら支え合うかたちはとても大切だと思います。また、いろいろな高齢者が集まる機会に早期発見の啓蒙活動を加えたり、なんでも相談できる専用ダイヤルをつくり、相談の入り口を広くとれるように要望しました。認知症は決して恥ずかしいものではなく、誰でもかかる可能性のあるものです。早期発見・早期対応で本人も家族も安心して地域で暮らしていける街をつくっていきたいと思います。身近な地域で暮らし続けることのできる社会を目指していくには、地域の皆さんの協力でお互い支え合うことが大切です。

ご意見・ご要望等お気軽にどうぞ！

市川市議会議員

稲葉健二のひと言メッセージ

No.48
平成２７年１１月１０日発行

稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

災害に強い街を考える。

市川市の人口は476,285人(９月30日現在)です。人口の密度は8200人を超えて千葉県で２位です。57.49㎢にこれだけの人がいるわけですから、災害時には混乱がおこる可能性が高いと考えられます。災害が起こった時に一時避難が必要な場合、「どこに行けばよいのか」「どうしたらよいのか」など明確に判断し、行動に移せる方は多いとは思いません。また、状況も刻々と変化するかもしれない中、難しいと思います。

市川市は北部、中部、南部と分けた時に災害時の課題も違ってくると予想されています。特に中部は家が密集しているので火災と一時避難する場所が無いことが問題とされています。八幡・菅野・東菅野の人口合計は33000人を越えます。南八幡も加えると、およそ5万人となります。人口密度は八幡12693人菅野10206人、東菅野11511人、南八幡21677人です。この人数プラスの人たちが、近くの小学校などに集まると想像するとどのようになるかが課題なのです。今、小学校区防災拠点協議会が立ち上がって様々な議論をはじめました。一番大切なのはパニックにならないように自宅が倒壊などの危険な状態でない方は「在宅避難」をしていただくことです。もちろん支援物資などの供給も考えなければなりません。そのためには自治会や地域の団体などで連携して、支援物資を「在宅避難」の方たちにも届けられるシステムをつくることです。平常時からその意識を高め、啓蒙して備えることです。日頃の自治会の会議などでもこのような議題を提起して、皆さんで考えていくことが、いざという時に大きな力になります。大切な家族を守るために地域で協力して備えていくことが災害に強い街となっていきます。

稲葉健二の市政考察　現在の市政の課題を考えてみたいと思います。

○自転車駐輪場の利用料金の見直し

来年の４月から市川市の自転車駐輪場の利用料金の見直しをすることが９月議会で決まりました。大きな点は２点です。１点目は、今まで無料で置くことができていた駐輪場はなくなります。（ただし一部の駐輪場は２時間まで無料の施設は継続の予定です）、２点目は、利用料金を改定します。駅の改札口からの距離の設定、放置禁止区域の設定、駐輪需要や放置の状況を含めて考えました。駅に近いところは高く、離れたところは安い設定となります。そのため、今までと利用料金が変わるところがでてきます。この見直しの効果として考えられることは、受益者負担の原則に近づくことです。自転車を利用していない方たちの税金からもこの駐輪事業に使われています。本来は利用する方たちの利用料金で成り立たなければならないものですが、市川市は毎年不足分１億１千７百万円以上の税金などを使っています。今回の見直しで不足分はおよそ８百万円くらいまで減らすことができ、その財源は他の施策に使うことができるようになるわけです。「なんでも値上げだ」と、よく言われますが本来負担すべきものは負担していただくことで、限りある税金を有効に使うことが大切ではないでしょうか。今まで無料で利用されてきた方たちにとっては負担増になりますが、違う施策で恩恵を受けることもあるかも知れません。扶助費は年々増えていく中で、歳入をいろいろな形で考えていかなければ安定した市政運営はできません。ご理解をお願いします。

○議会での活動

今年の４月の統一地方選挙において、多くの皆様のお力で４期めのスタートをきることができました。今まで以上に市政のため、地域のために頑張っていきたいと思います。

○議会での役職等

- 健康福祉常任委員会委員
- 市川市土地開発公社理事
- 市川市環境審議会委員
- 政務活動費に関する部会座長

○ごみの有料化の考え方

市川市は今家庭ごみの有料化を検討しています。説明会を開いて考え方を伝えています。根本的な考え方はごみの減量です。燃えるごみの中には紙などの本来資源として分けられるものが３割くらい混ざっていると言われています。１２分別でかなりごみが減った時期がありましたが、最近は横ばいの状況です。焼却炉の建替えもメンテナンスをして伸ばしていますが、いずれ建替えなければなりません。加えて市川市には焼却灰を最終的に処理する場所が無く他市にお願いして処分しています。ごみが減れば焼却炉の寿命も伸ばすことができるうえ、焼却灰の量も減ることになります。市川市の提案は①ごみ袋に手数料を加えたものにする。②ごみの収集間隔をあける。（週３回から２回に）③戸別収集です。元々ごみ袋は有料で購入しているので、その代金に処理手数料が加えたものになります。ごみ袋代があがることや収集が減ればごみを出すのを減らすことになると考えます。また戸別収集は各自がごみの出し方に責任を持つことになります。最近千葉市でも有料化になりました。手数料は1リットルあたり１円か２円を検討していますが、45リットルの袋になると１袋が４５円か９０円ということになるわけです。ごみの処分をしっかり分別して、資源として処理することを進めることが、環境にもお財布にもやさしい生活ができることになるわけです。ごみに少し関心をもって資源を増やし、ごみを減らしていきましょう。